

洋書輸入協会会報

VOL. 22

NO. 5

(通巻253号) 1988年 5 月

理事会報告

3月28日(月)

(一) 定時総会

5月12日(木)午後2時から学士会館分館で開催することとした。

(二) 選挙管理委員会

委員会が4月5日(火)3時から開催されることが事務局長から報告された。

(三) 事務所移転

3月17日(木)の相武住宅社長との話しあいにもとづき3月28日(月)同社から回答があり、家賃の増額に伴う補償金の増額について提案があったことが松井幸雄氏(丸善)から報告され、回答を受諾することが承認された。また4月7日(木)までに新しい家主と契約し、4月16日(土)に移転する日程も承認された。

(四) 63年度予算案

事務局案を修正した総務委員会案について松井幸雄氏から説明があり、検討した。

(五) 日米図書館会議

会員への回状の原案を検討し、決定した。

(六) 懇親旅行

予定について文化厚生委員会武田全弘氏(三洋出版貿易)から説明があった。

(七) シンガポール出版業代表団

礼状および記念品がとどき、披露された。

(八) エルゼビヤ

エルゼビヤ・サイエンス・パブリッシャーズ社に理事長名で抗議文を送ることに決定した。

(九) その他。

4月12日(火)

(一) 三月分収支計算・予算対比表

4月18日(月)の総務委員会での62年度を含む検討にもとづく松井幸雄氏の報告を承認した。

(二) 63年度予算案

前回検討した予算案を検討の上修正した。

(三) 事務所移転

新しい家主千代田会館と予定どおり契約書をかわしたことが報告され、会員、会員外、海外への移転通知について検討し、会員への通知文を決定した。(4月13日付けJBIA No.521を参照)

(四) エルゼビヤ

前回の決定にもとづき抗議文を送ったことが報告された。

(五) 会費

値上げは当分行わない方向ではあるが、意見を交換した。

(六) ダイレクトリイ委員会

すでに校了となり、総会前に配布することが委員長石内茂吉氏(東光堂)から報告された。あわせて頒価についても原案どおり承認された。

(七) その他。

理事会報告……………1	洋書輸入協会史(30)……………3	よこめし・たてめし(9)……………7
文化厚生委員会だより	おしらせ……………5	総代理店ご案内……………7
第19回麻雀大会の記……………2	海外ニュース……………5	広告……………8
米国書籍、雑誌の輸出奨励策……………2	「丸善 本の図書館」の概要(1) ……6	

第19回麻雀大会の記

日 時：1988年4月1日 6：30PMより 半荘3回

場 所：神田すずらん通り 麻雀ポニー

参加者：24名

業界の皆様には新年度並びに教科書の販売合戦ご多忙の折、毎度多数お集り戴いて幹事に致しましては心より感謝して居ます。今19回大会も前回同様24名のご参加でした。その中でもとつぜんの欠員一名補充にポニービルの3階三省堂書店、平野洋二氏にご無理をお願いしたところ快くプレイに参加いただき助かりました。但し、平野さんはパイを握るのは何年振りだとか、成績はとも角古き友に逢えて楽しまれた様でした。

成績は今回も前回同様初参加の丸善電子計算機事業部角井 存氏が毎回プラスの総得点68で優勝されました。準優勝には役満を上ったのに性格がケンキョな方とお見受けします太洋交易の塚本さんが入賞され、又、三位には役満を振り込んでも尚3位に浮上すると言うシブトイ紀伊國屋の湊さんがそれぞれ入賞されました。メクレンブルグの古島さんも絶好の優勝をねらえる位置にいたのですが第三回戦の点数不足で4位でした。第5位のオックスフォードの辻さんはお酒を召し上らないのにジョークを飛ばす楽しいプレイでした。

参加者の皆様それぞれに麻雀とアルコールを楽しまれた様ですが、回を重ねる毎に顔が赤くなり点数も赤点が増えた様です。ちなみに今回のアルコール、ウイスキー3本、ビール〇〇本、その他……。新春パーティより皆様召し上ったのでは……。翌日休みで本当に良かったと思います。

尚、成績は下記の通りでした。次回のご参加お待ちしております。(ST記)

1位	角井氏	(丸善)	68点
2位	塚本氏	(太洋交易)	51点
3位	湊氏	(紀伊國屋)	46点
4位	古島氏	(メクレンブルグ)	44点
5位	辻氏	(オックスフォード)	43点
B.B.	広瀬氏	(太洋交易)	——

米国書籍、雑誌出版物の輸出奨励策

米国商務省は、米国の書籍および雑誌に対する海外からの需要、とくに科学技術および医学関連出版物への需要が増大してくるという見通しを立てており、中小書籍、雑誌出版社の輸出および海外ライセンスによる収益増大を画るために、新たな奨励策を検討中である。

米国の書籍、雑誌の輸出は、現在記録的レベルに達しているが、これは、国外の学者が熟練して来たこと、英語が国際的に第二言語として認められて来たこと、米ドルの価値の下落等の要因によるものである。

米国書籍の輸出は1987年は第3四半期までに542百万ドルに達し、これは1986年同時期に比べ19.5%の増加である。また、米国の科学技術書および専門書の売り上げは、141百万ドルで20.9%の増加、一方テキストブックの売り上げも107百万ドルに達し、1986年比で24.2%の増加である。また、雑誌の輸出は、333百万ドルで19.1%の増加である。

これらの輸出の増加は、主要な出版物市場たるカナダ、英国、オーストラリア、日本ばかりでなく、新興市場である太平洋沿岸諸国への輸出も急速に増大しているのである。

しかし、近年の好調な輸出にも拘らず、米国は、英国、フランス、西独などの他の主要出版国に比べ、海外での出版物のプロモーションが立ち遅れているという声が増大している。とくに商務省に対しては、海外市場調査、貿易フェアへの参加、輸出貿易商社の活動、米国出版物に関する情報の流通等への援助が求められている。

商務省は、米国出版社による輸出を促進するための第一段階として、1988年5月、カリフォルニア州アナハイムで開催されるAmerican Booksellers Associationの年次大会で、輸出貿易セミナーを開催する計画を立てている。このセミナーのセッションでは、海外市場の選択、発注処理業者あるいは、販売業者の選択、また、販売権の交渉等を取り上げる。また、輸出援助団体、官民あるいは出版社どうしの協力体制、輸出貿易に関する情報のソース等を論ずる予定である。(Society for Scholarly Publishers Letter Vol.10, No.1よりの要約)

(ユサコ株式会社提供)

洋書輸入協会史 (30)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

32 外国出版社よりの来日

32.1 昭和26年から27年にかけて

昭和26年(1951)7月には英国から Mr. Maxwellが、翌27年1月にはシンガポールから Mr. Donald Mooreが来日し、10月には英国 Allen & Unwin社の Sir Stanley Unwin と Mr. David Unwin が、そして Mr. Donald Moore が二度目の来日を果す。

同年12月には英国 Longmans & Green社の Mr. D. C. Yeomanと西独 Urban & Schwarzenberg 社の Mr. Otto Schäferが来日する。

国交回復以前には何等かの資格で、昭和27年('52)4月28日の平和条約発効以後は商用で、以後は続々と外国出版社の人達が来日することとなるが、この当時は未だ珍らしく、この方達はいわば先駆者ともいべき人達であった。迎える我々の側も外国出版界の情報に乏しく、その都度臨時の懇談会を開催して熱心に話を聞いたものである。以下に Maxwell 氏と Moore 氏とを取り上げて紹介してみたい。

32.2 Mr. Robert Maxwell

昭和26年(1951)7月17日に、同業会は三越地下別室において懇談会を開催し、英国から来日中の Maxwell 氏を招いてその話を聞いた。同氏は Lange Maxwell & Springer Ltd. London の代表取締役であり、出席会員は24社33名。この折の同氏の話には、当時の世界情勢や出版事情、同氏の考え方などが散見するので、いささか長くなるが要点を以下に記してみよう。

記

今回の旅行の目的は、全世界に広く友人を求めることであるので、今日この海外出版物輸入同業界の懇談会に出席出来たことを喜んでいる。

私はドイツ最大の出版社である Springer 社の英国代表で、名誉 Captain である。ドイツの出版界は戦前においても世界の水準を抜いていたが、今日またその地位を取り戻しつつあり、ドイツの科学技術書が、戦後の日本復興に無くてはならないものと確信している。

(注)以下は Maxwell 氏が出席者の質問に答える形で進
行したもの。

Q: ドイツの主要な取次店は?

A: Koehler & Volkmar, Vogel Verlagsbuchhandlung
など。

Q: ドイツの本の高い理由は?

A: 平価切下げの差が第一の理由である。ドイツが22%、他の諸国が大体25%で、3%だけドイツが高くなっている。

第二の理由は印刷機械の復旧が遅れ、このために印刷が割高となっている。第三にはページ当りのコストが高いこと。特に雑誌は他国がやっているような協会などからの補助がなく、ローヤリティがフルにかかってくるのでどうしても高くなる。なお Springer 社は、45年にわたり最高の質を誇り、かつ最高のローヤリティを払っているので、その出版物の価格も高いことで有名である。

Q: 貴社は英国書の取次をするか?

A: 英国最大の取次店 Simpkin Marshallを合併し、全書籍を出版社と同一Discountで取次しようと考えている。こうすると英国書を希望するところは、注文をまとめてL/Cを開くことが出来るであろう。

Q: 英国出版社の現況は?

A: 70%の強制輸出がある。印刷が隘路でその費用は過去一カ年に150%上昇した。今後の見通しも悪い。

書籍の輸入税については、国際連合がこれを全廃するよう申し合わせている。その他の輸出入の諸制約についても、英国は2~3の地域を除き自由である。日本はその例外地域に含まれ、日英通商協定が書籍を例外としていないため、日本からの書籍輸入には許可が必要である。ただし我社は、数千ドルに及ぶ日本からの輸入許可を持っている。(以上)

(注)上記の Maxwell 氏の話は、当時の同業会事務局の田辺 寛氏が要点をメモしたものを、相良が整理したものです。

32.3 Mr. Donald Moore

昭和27年(1952)の1月と10月の二度にわたり来日し

た Donald Moore 氏は、その後もしばしば来日し、日本人に親しまれた文化人である上に、UPS という重要な後継者を日本に残したという点で目立っている。この人の略歴を以下に紹介してみよう。

Moore 氏は英国人で、第二次世界大戦中は海軍に勤務し掃海艇長であった。1920年前後の生れであったと思われる。

(注)第二次世界大戦に従軍し、戦後出版社の代表として来日していた人達は多いが、中でも有名であるのは次の方達であろう。

米国 Prentice-Hall 社 Mr. Allan L.

Reid (南太平洋戦線)

英国 Associated Book Publishers 社

Mr. John Spragg (英印軍)

英国 Butterworth 社 Mr. W. Gordon

Graham (ビルマ戦線)

(以上)

Moore 氏は、戦時中の最後の勤務地が極東であったので、退役後も極東で仕事をしたいと思い、英国の出版社を廻って7～8社の極東代表の約束を取りつけ、シンガポールにその拠点を構えた。発足時は Cambridge U. P., Cape, Chatto, Dent, Hodder, Heinemann などが主なものであった。

シンガポールの次には香港に支店を開設し、昭和31年(1956年)来日して現 UPS 社長の齊藤純生氏を採用、同氏を英国ケンブリッジへ約一年送って研修させた後、翌32年に Donald Moore 社の日本支店を東京に開庁する。

同氏は文人であり著書も多い。最も有名なものは、Hodder 社から出版した「Of All One Company」という小説で、ドイツの海軍と戦った物語である。7～8万部も売れたであろうか。米国の出版は Doubleday 社からである。これを米国の二十世紀フォックス社が映画化しようとしたが、英国海軍の艦艇を借りる費用の点で折り合いがつかず、実現に至らなかった由。

Moore 社は次第に発展して40社に近い出版社を代表するに至ったが、いささか拡張し過ぎて、昭和42年('67)に整理段階に入る。日本支店は UPS と改称し齊藤氏が社長として再発足、今日に至っている。Moore 氏と洋書輸入協会の縁はこれで切れたが、同氏はその後も東南アジアでいわゆる呼び屋として活動を継続し、サンフランシ

スコのシティー バレー団とかベニー グッドマンを招くなどのことがあり、またシンガポール ピープルズ シアターを創立するなど文化的な事業に貢献することが多かった。

現在は隠退して英国北部で余生を送っている由。

(注)この項は UPS 齊藤社長のお話を伺ったものです。

33 昭和27年(1952)から昭和28年(1953)前半にかけてのその他の出来事

33.1 Unesco Coupon

かねてより日本学術会議からの要望により、ユネスコ・クーポンに加入する件につき諮問を受けていた下記各機関が、主として書籍に関する事項を協議するために、昭和27年3月14日に開催した会議に我々同業会からも参加した。当日の出席者は次の通り。

総理府科学技術庁行政協議会事務局 (STAC, Scientific & Technical Administration Committee)

文部省ユネスコ課、学術情報室

外務省文化課

工業技術庁調査課

通産省より平井事務官

同業会より丸善、エンデルレ、海外出版貿易、紀伊國屋書店、教文館、タトルなど。

この会議の席上でユネスコ・クーポンについての説明と討議があったが、その後も討議が重ねられ、7月に加入の答申が提出される。その後もしばしば打ち合わせがあって、昭和28年2月1日より日本もユネスコ・クーポン取扱国となった。

昭和28年2月28日付海輸第35号によれば、このクーポンは、日本学術振興会が Agent となり、総額年間10万\$のうち、書籍及び定期刊行物(学会会費を含む)については5万\$を限度としてクーポンによる輸入(送金)が可能となった。そしてこのクーポンによる輸入は、顧客が自分で輸入するのが建前であるが、日本の現状から見て商社経由依頼もあるかと思われる関係上、学振から当同業会会員へも協力方の申し入れがあったものである。

この申し入れに対し、同業会としては2月20日に懇談会を開き、出来るだけこれに協力することを申し合わせその旨学振へ回答しているが、その折必要な手数料は申

し受ける旨併せて学振側へ申し伝えた」と記されている。
なおユネスコ・クーポンについては、昭和27年に文部省
大臣官房渉外ユネスコ課より、文ユ資料第41号として詳
細な説明が出されている。

海外ニュース

「アメリカの本の価格」

33.2 Exchange Rate の変更

昭和28年1月13日から銀行扱の現物 Selling Rateが、
従来の\$…¥361.05 から、\$…¥360.80 に変更された。た
だし手形の場合は従来通りの ¥361.55 が据え置かれて
いる。

33.3 Micro 類の輸入許可

昭和27年12月から、Microfilm 形式の Book & Per-
iodicals の輸入が正式に許可された。

33.4 Picture 課税規準について

昭和27年4月から書籍・雑誌はAA制に移行したが、こ
れに伴い5月に Picture Book の課税問題が起った。そ
れは結局のところ戦前よりも色彩写真が発達したために、
戦前の観点からの課税が不合理になったという点にあり、
そのため同業会として大蔵省税関部、横浜税関部、東京
中央郵便局支所と数回にわたり折衝し、かつ陳情書を提
出した。

その結果「蔵税第1262号、印刷した絵画又は写真を主
たる内容とする書籍の税分類について」という通達が各
税関長宛発送され、観賞用に限り課税されることとなっ
た。ただし観賞用の認定基準については未だ問題が持ち
越されている。

(続く)

パブリッシャーズ・ウィークリー誌が発表した出版統
計によれば、1987年に出版されたハードカバー本の平均
単価は\$35.34で、前年より9%値上りした。特殊な高額
本による影響を除くため\$81以上のものを除外して計算
すると、ハードカバー本の平均単価は、前年の\$27.15か
ら\$28.71へと6%上昇したことになる。

大衆市場向ペーパーバックの平均単価は、1986年が
\$3.86で1987年は\$3.98であるから、3%の値上りにとど
まった。

大衆市場向以外のペーパーバック、いわゆるトレー
ド・ペーパーバックは、前年の\$14.86から\$14.53へと、
逆に、僅かながら値下りした。

(Publishers Weekly、3月11日号より)

「アシェット社がグロリア社 を買収」

アメリカの百科辞典類の出版社としては最大手である
Grolier社は、フランス最大の出版グループである Ha-
chette社に、約4億5千万ドルで買収されることになっ
た。当初一株当たり21ドルと提示された買収額が24.25
ドルに引き上げられ、Grolier側がこれに同意したからで
ある。

なお、Grolierの教育玩具部門は約5,200万ドルでウォ
ルト・ディズニー社に売れることをHachette社は同意した
が、それ以外の部門はそっくりそのままHachette社の傘
下に入ることになる。

昨年のHachette社の売上高は30億ドルで、Grolier社
の売上高は4億2,400万ドルであった。この両者の合併
により、少なくとも百科事典類の分野では世界に冠たる出
版社が出現したわけで、今後が注目される。

(Publishers Weekly、4月22日号より)

—紀伊國屋書店提供—

おしらせ

下記の通り「ダイレクトリイ」1988年版を御訂正くだ
さい。

日経マグローヒル株式会社

削除 常任監査役 菅野 茂

追加 営業総長(Marketing Director)

村井 弘

「丸善 本の図書館」の概容 (1)

丸善本の図書館館長 鈴木 陽 二

「本の図書館」とはよく考えてみると誠に奇妙な名前ではある。図書館というのは、そもそもが本を対象とした機関なのだから。だが、この名前は、当図書館の性格を实によく表わしているし、そして、公式張って構えているというのでもなく、ある種の魅力さえも感じさせる表現である。「本の図書館」とは、正に、本に関する、出版に関する専門の図書館なのである。

1 「本の図書館」設立の意味

「本の図書館」は、昭和29年、丸善の創立85周年の記念に開設されたものではあるが、しかし、この記念事業として突然に生まれでたアイデアではない。それは丸善の長い歴史の中で培われ、醸成されてきた考えの具体的結実であったのである。

今、改めて丸善の歴史を披歴することはしないが、創業以来、輸入書籍であれ、自社出版物であれ、また、和書の販売であれ、出版物を中心とした営業を一貫して展開してきた丸善は、必然的に日本の近代化を推進し、また、学術文化の発展を支えることができた。その事績の上に立って、もっと積極的な意味で社会への貢献、即ち、丸善の純粋な文化活動としての事業を行うとすれば、それは正に、出版物を通してのものでなければならず、その活動が、一企業を超えて、日本の出版文化を発展させる、そういう意義をもつものでなければならなかったのである。

初代館長、中村春太郎氏の筆になる「本の図書館について」という文章によれば、「この図書館の意図するものは『本』に関する総てをあらゆる点から研究した書籍の蒐集を計り文化の面で如何に書籍の働く場面が重要であったか且つ今後如何にあるべきかを知る方策の一つとして開設されたものである」と述べているが、人類文化の推進役としての書籍の重要性を直截簡明に表現していると同時に、「本の図書館」設立の主旨がここに語り尽くされている。

2 沿革——(1) 開設までの経緯

出版物を商品として取扱ってれば、営業上必要と

される参考書籍類が断えず蓄積されて行くのは当然で、それは今日でも変らない。明治42年の火災によって焼失する迄は、創業以来40年間に蓄積された貴重な資料類を相当持っていたに相違ない。その時には、火元であった隣家からの火の回りが早く、帳簿の一部を持ち出すのがやっとで、「灰燼十萬巻」(内田魯庵)といわれたように、大量の商品のみならず、参考文献や資料類も烏有に帰してしまった。

次の災害は関東大震災であった。丸善は明治43年に煉瓦造り4階建のビルを竣工し、その瀟洒な洋風建築は日本橋の名所にまでなっていた。この堅牢なビルは地震には耐え得たものの、その後襲ってきた猛火によって軟くなった鉄骨が、ストックの重みを支え切れずに崩壊してしまうのである。瓦解した丸善ビルの被災状況を当時発行された絵葉書で見ることができるが、それは誠にすさまじいものである。この時の書籍類の焼失は大変なもので、特にキリシタン関係の貴重な洋書は、日本の文化的損失とまでいわれた程のものであった。

この二度の災害のあとも不断に収書に努め、日華事変頃から、蓄積された資料を「学鑑文庫」と名付けて社員に開放し活用が図られた。「本の図書館」の構想は、昭和15年に、洋書仕入部長を兼務していた山崎民雄取締役によりその具体化に向けて着手され、それ以後組織的な収書が進められることになった。

昭和16年に太平洋戦争が勃発したが、前二度の災害の経験を生かして、集められた資料はすべて山梨に疎開したため、戦禍をまぬがれることができた。そして、丸善ビルは、昭和20年の3月9日から10日にかけての、江東方面から始って日本橋、銀座、神田と都心一帯を壊滅させた大空襲によって、三度目の大きな災害から逃れることができなかった。

「本の図書館」の歴史として、丸善の災害の歴史のみを述べてきたようであるが、それは、資料の収集がまるで賽の河原の石積みのような経過をたどったにも拘らず、それを乗り越えて、出版文化への貢献を具体的に示そうとして努力した先人達の夢を語りたかったか

らである。

戦後は丸善の復興・洋書の輸入再開に併せて取書が積極的に進められ、そうして充分に公開に耐える内容

となったのを機会に、昭和29年1月1日、創立85周年を期して、いよいよ一般公開に踏み切ったのである。

(つづく)

よこめし・たてめし (9)

一杯の天ぷらそばの中に、日本の美のひとかけらを指摘したM夫人の会社に就職して、机を並べることになった。昼食事、ときに出前ものに頼ることもある。食事の作法については、小さい時から割合きびしくしつけられた、と思っている私であるが、「そば」を全くの無音で喰べるM夫人の隣りで、同じものを喰べるのには、ちょっと神経を使わざるを得なかった。「ざるそば」のような冷いものの方が、音をたてずに喰べるのには、まだ始末が良い。(うまい、まずい、の問題はこの際しばらく棚あげすることにして——。)

「支那そば」の熱々などを、静かに喰べる方が骨が折れた。熱い麺が口の中に入ると、ついズルズルとやりたきになってしまうのを、グッとこらえて、静かにくわえ込む。適当なところで、アグッとやって、口中で麺を切断し、静かにスープを一口飲む。……このように記述すると、いかにも大げさだが、実際は、「習うより馴れろ」で、じきに「無音そば喰いの術」はマスターした。

お前、そんなことは自慢にもなるまい、と云われ

ば、全くその通りで一言もないが、その当時(1950年頃)から、東京にも、フランス料理店などが何軒かオープンされ、そのような店で、毛色の変った連中と食事をする機会も増えたが、スープの喰べ方(日本式に云えば、飲み方)ではヒケをとらなかったつもりである。トーマス・マンの書いたものの中に「祖父は背の高い椅子に、びしっと自分の背を伸ばして坐り、上体を揺らすこともなく、スープを口に運んだ」というような描写があるが、これはこれで、仲々良いものである。一寸キザな云い方を許していただけるなら、「フォーマルな食事のよろこび」というようなものが、そこにはある。

たしかに、交通公社の添乗員でなくても、パリのホテルの食堂で、団体客が一斉にスープを「ズルズル」と音をたてて吸りだしたら、こいつは困ったと思うに違いない。「食事と音」の問題は、「よこめし・たてめし」としては避けることのできない事柄なので、次回に、さらに考えてみることにしよう。

(つづく) (K. S.)

総代理店ご案内

㈱ 紀伊國屋書店 Tel. (03) 354-0131
ANMA Libri, U.S.A. ... All books and all periodicals

日本出版貿易㈱ Tel. (03) 292-3755
Fax. (03) 292-0410

Collier Macmillan International, U.S.A.
Exercise and Sport Sciences Reviews
Vol. 6 and following volumes

日経マグローヒル販売㈱ Tel. (03) 233-8095
Fax. (03) 292-8958

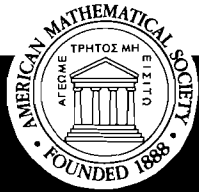
マードック マガジンズ パブリケーション
Hotel & Travel Index (HTI) 年4回発行
1年: 20,500円 2年: 36,500円
3年: 50,400円

Official Hotel & Resort Guide (OHRG)
全4巻、年間6回サプリメント発行
1年: 新規 50,600円 継続 41,800円
2年: " 84,700円 " 70,000円
3年: " 117,700円 " 97,200円



AMERICAN
MATHEMATICAL
SOCIETY
1888 - 1988

100 YEARS OF AMERICAN MATHEMATICS



アメリカ数学会誌

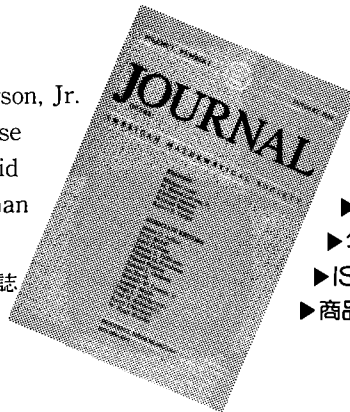
JOURNAL OF THE AMERICAN MATHEMATICAL SOCIETY

学会創立100年を記念して1988年1月創刊!!

Editors

Michael Artin
H. Blaine Lawson, Jr.
Richard Melrose
Wilfried Schmid
Robert E. Tarjan

アメリカ数学会が発行する季刊誌で、純粋数学、応用数学のあらゆる分野における最高水準の研究論文を掲載します。



日本総代理店
MARUZEN

- ▶発行国：米国
- ▶発行回数：季刊
- ▶年間購読料：¥23,000
- ▶ISSN 0894-0347
- ▶商品コード 531100

☆CONTENTS(Vol.1 No.1より)

Extremals for the Sobolev inequality on the Heisenberg group and the CR Yamabe problem / Homology of the zero-set of a nilpotent vector field on a flag manifold / Arithmeticity of holonomy groups of Lie foliations / Reduced Hausdorff dimension and concentration-cancellation for two-dimensional incompressible flow / Zero-one laws for sparse random graphs / Flip theorem and the existence of minimal models for 3-folds / p -adic Hodge theory

- 原価改定、為替相場の変動等の理由により、価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願いいたします。
- ご注文、ご照会は最寄りの書店、大学生協または弊社本・支店販売部(課)外国雑誌担当までお申しつけ下さい。



日本総代理店

本社・日本橋店：(〒103) 東京都中央区日本橋2-3-10 ☎(03)272-7211 振替東京7-5番

支店・営業所—東京(お茶の水・丸の内・内幸町・浜松町・アークヒルズ・錦糸町・北千住・土浦・ららぽーと船橋)・八王子・所沢・大宮・新潟・松本/札幌・旭川・仙台・弘前・盛岡・郡山・筑波・水戸・横浜・名古屋・静岡・岐阜・三重・金沢・富山・福井・京都・滋賀・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・山口・福岡・長崎・鹿児島・沖縄 / ニューヨーク・ロンドン・シンガポール

1988年5月 通巻第253号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎271-6901 FAX 271-6920
☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329